

第 31 回 J A 人づくり研究会（現地視察）



1. マルイファームの紹介

代表；石川 照雄

住所；横浜市都筑区東方町 991 番地

作付面積；約 400 a (4ha)

概要；ほうれん草と小松菜を中心とした軟弱野菜を長年栽培。

「東方軟弱野菜研究会」を昭和 57 年に設立。

防虫用の不織布をメーカーと協同開発し「環境保全型農業推進コンクール奨励賞」を受賞するなど、軟弱野菜に関する栽培技術や経験は、横浜市内でリーダー的な存在。

父親が亡くなったことを契機に、経営転換をはかり、2009 年よりブルーベリー栽培による観光農園を開始。

現在は、農業ボランティアの協力も得て、年間約 35 品目の野菜や果樹を栽培。

2. 直売所の運営

営業日；水曜日・土曜日

営業時間；14：00～16：30

販売品；野菜（ほうれん草・小松菜・とうもろこし・枝豆・
長ねぎ・ブロッコリー・キャベツ・トマト等）
果物（ブルーベリー・ぶどう・いちじく・柿等）



3. 低農薬栽培

不織布や防虫ネットなどを使って農薬を使用する回数を減らし、低農薬栽培を実施。

レタス類は生で食べるので、収穫が始まるまでネットをかけて栽培し、農薬を使用しないで育てる。マルイファームでは、見た目が多少悪くても、農薬の使用回数を極力減らして、野菜を栽培している。



4. ブルーベリー狩り（完全予約制）

オープン期間；7月7日～8月20日（2018年度）

営業日；月・水・土曜日（摘み取りは10：00～11：30）

面積；約50a（700本・30種類のブルーベリー）

利用料金；大人…1,500円（300gのお土産付き）

子供…500円

利用者数；約2,000人（2018年度）

その他；農薬などの薬剤散布をしない



5. 都筑農業ボランティア

《都筑農業ボランティアとは》

都筑区では、都市農業の理解や地産地消の推進を目的に、農業に関心がある方を対象に、平成21年から協力農家での簡単な農業指導により一定程度の知識を身につけてから、区内の農家でのボランティア活動を体験してもらう、農業ボランティア体験事業を実施。

《マルイファームでは約50名の都筑農業ボランティアが活躍》

マルイファームは、都筑農業ボランティア体験の、受け入れ農家となっている。現在約50名の都筑農業ボランティアの方々が、マルイファームと一緒に作業。この都筑農業ボランティアの方々の活躍により、多くの種類の野菜や果物を一つの農園で栽培することができている。

《ボランティアは意欲的で研究熱心》

ぶどうの一大産地である勝沼出身のボランティアの方もおり、他のボランティアにぶどう栽培の指導を行うなどして、活躍されているボランティアもいます。

このように、マルイファームで活躍するボランティアの方々は、農業に対して研究熱心の方が多く、また、社会経験も豊富（一般企業退職後にボランティアになる方が多い）であることから、私自身ボランティアから販売方法等、多くのことを教わっています。

農作業において、意欲的なボランティアの活用が、今後の日本の農業を助けるビジネスモデルになる事を願います。

最後に、私の一番のモットーは“楽しく農作業をする”ことです。受け入れているボランティアも、私も笑いながら楽しく農作業をすることで、お互いに良い関係を築いていけるのだと思います。



ブロッコリーの定植↑



枝豆の枝から豆を取る作業（6月～8月）↑

よこはまのやさしい農園

マルイファーム

マルイファームではブドウ、イチジク、エダマメ、ハウレンソウなど年間約35品目を栽培し、併設する直売所等で販売しています。現在のような多品目栽培に切り替えたのは2009年に市民ボランティアの受け入れを始めてから。それまではハウレンソウと小松菜を中心とした軟弱野菜のみの栽培を30年間続けていました。また、ボランティアの受け入れと同時期にブルーベリーの栽培を始め、ブルーベリー狩りのできる観光農園にシフトしました。

経営する上で大事にしていることは「みんなで笑いながら、楽しみながら仕事をする」こと。ボランティアの中には企業の定年退職者など社会経験の豊富な人が多く、素晴らしいアイデアを提供してくれる。こういう人たちと相互に楽しみながら仕事をするのが石川さんの夢です。

○代表：石川照雄さん（62）

○所在地：神奈川県横浜市都筑区東方町99
1番地（都筑区 世帯数：978 人口：1187人）

港北のニュータウンなど人口密集地に
近い丘陵地。仲町台駅から1.5km（徒歩
20分）

○経営面積

約4ヘクタール

○主要作物とその年間作付面積

ハウレンソウ（1ヘクタール）、トウモロコシ（50アール～60アール）、
エダマメ（40アール）、ブルーベリー（50アール）

○出荷先

- ・併設の直売所（自営）
- ・JA横浜 中川支店
- ・横浜市都筑区役所の朝市
- ・JA横浜 メルカート北
- ・不定期開催「農業ボランティア」に出店

○特徴

- ・都筑農業ボランティアの受け入れ
現在約50人を受け入れ。農場に頻繁に通う人は30～40人ほど。
平日は企業を定年退職した男性や主婦、土曜日は男女問わず会社等に務め
ている人が通う。



都筑農業ボランティアとは

☞ 都市農業の理解や地産地消の推進を目的とし、2009年8月に区が始めたボランティア体験事業。現在は都筑農業ボランティアの会として独立。参加者は、協力農家で一定の知識と技術を身に付けてから区内の農家で農作業に従事。

(農作業に従事するボランティアの方々)



- ・横浜市内の県立高校からインターンシップを受け入れ夏休み期間に数人程度を受け入れ。
ほとんどの高校生がインターンシップ後は大学進学を目指す。

- ・金港青果（市場）から研修生の受け入れ
短期・長期合わせて20人ほど。



- ・直売所に併設した畑で野菜を栽培
直売を訪れるお客様は畑を見ることができる。



朝採れ野菜が並ぶ直売所でジュニア野菜ソムリエがおいしい野菜の食べ方を紹介。



・減農薬

(畑に併設する直売所)

(直売所店内の様子)

収穫が始まるまでネットをかけて栽培。ネットの周りに土をかけて虫の侵入を防ぐ工夫をしている。レタス類は生で食べるので農薬を使用しない。見た目の美しさよりも安全性を重視した栽培を行う。



(エダマメの栽培)



(ハクサイの栽培)



(サニーレタスの栽培)